

【応募様式】

法人名	社会福祉法人京都福祉サービス協会		
施設・事業所名	各地域包括支援センター、各特別養護老人ホーム、各訪問介護・居宅介護支援事務所、各児童館ほか		
取組名称	学生を対象とした職業体験や実習生の受け入れ		
取組の目的や背景・内容など			
<p>福祉人材育成のための実習生の受入を初め、将来、福祉の仕事に興味を持っていただくことを目的とした中学生等の職業体験など積極的に受け入れています。</p>			
2018年度 (人)			
種 別	実人員	延べ人数	
社会福祉士現場実習	58	1,282	
介護福祉士実習	54	688	
初任者研修	93	153	
実務者研修	4	14	
介護等体験	78	348	
CM実務者研修	3	3	
看護師	42	110	
歯科衛生士	44	658	
栄養士・管理栄養士	22	122	
中学生チャレンジ体験	30	111	
保育士ほか実習	45	117	
児童館ボランティア実習等	57	57	
その他	32	86	
計	562	3,749	

【応募様式】

法人名	社会福祉法人京都福祉サービス協会
施設・事業所名	居宅本部
取組名称	迷い人発見協力事業
取組の目的や背景・内容など	
<p>京都福祉サービス協会の居宅部門(訪問介護サービス等)のご利用者のうち、認知症等により行方不明となるおそれがあるご利用者からの申請に基づき、事前に情報を登録しておきます。行方不明になった際には、居宅部門の社内メールや所属従業員の貸与携帯電話等に登録された情報をメール送信し発見協力依頼を行うことで、早期発見につながるよう協力する事業です。</p>	
取組を行って良かった点など	
<p>市内各地域でも同様のネットワークがありますが、当法人は市内全域でサービスを提供していることから、市内各地に訪問介護員(約 1,400人)が在住しており、より広範囲での発見協力が可能なため、登録されたご利用者の安心に繋げることができました。</p>	

【応募様式】

法人名	社会福祉法人京都福祉サービス協会
施設・事業所名	高齢者福祉施設 紫野
取組名称	① 地域と一緒に取組む防災訓練 ② コミュニティーカフェ
取組の目的や背景・内容など	
<p>① 学区の防災訓練の日に合わせ、施設で福祉避難所の開設受入訓練を実施。一般避難所で行政がトリアージした方に、地域のボランティアさんが扮し、送迎や受入、説明、移動の訓練を実施。</p> <p>② 毎月1回、施設（特養）のセミパブリックスペースを活用し、施設利用者と地域の方が一緒に介護予防体操やカフェを楽しめる場の提供。北総合支援学校の生徒さんが喫茶の運営をしています。</p>	
取組を行って良かった点など	
<p>① 実際に災害が起こった場合に備え、合同訓練や会議を地域の方と一緒に行うことで、顔の見える関係が深まった。地域の方については、施設の状況や機能などの理解が深まった。防災や減災について、具体的な動きやマニュアルの整備が進んだ。</p> <p>② 施設ご利用者と地域住民の顔が見える関係が進んだ。一緒に歌を歌った時は、地域の方が特養利用者の歌本のページをめくってくださったり、横に座って一緒にリズムを取ってくださったりと、自然に交流が図れた。</p>	



福祉避難所 受入れ準備



福祉避難所 受入れ



コミュニティーカフェ
介護予防体操の場面

【応募様式】

法人名	社会福祉法人京都福祉サービス協会
施設・事業所名	高齢者福祉施設小川
取組名称	おがわ食堂
取組の目的や背景・内容など	
<p>毎月1回、地域にお住いの一人暮らしの高齢者を対象に食事会を催しています。目的は、独居に伴う個食、孤立、孤独を防ぎ、繋がりを作ることです。30名を定員に実施していますが、毎回50名近い方の申し込みがあります。</p> <p>そこで、年に1回は「おがわ大食堂」として、定員を設けず、対象も限定せず、どなたでも来ていただける食堂として、多世代交流を促進する場としています。同志社大学をはじめ、上京区を拠点に活動する様々な団体と協働し、取り組みを進めているところです。</p>	
取組を行って良かった点など	
<p>お住いの場所を地図に落とし込むことによって、見知らぬ相手であっても「案外近所に住んでいるんやなあ」と会話が弾んだり、道で会っても挨拶するようになったりと、交流促進という面では、成果が見られていると思います。</p> <p>また、各種介護予防教室や、「京都ソリデール」など、高齢者に関する情報提供の場にもなっており、その点でも、社会との繋がり作りに寄与していると思います。</p> <p>誰かと食事を摂る機会の有無が、認知症の発症に関連するというデータもありますので、食堂に来ていただけたことで満足するのではなく、食堂で出会った方同士が仲良くなり、連れだって出かけたり、お互いの家を行き来するようになるまで持っていければ良いなあと思っています。</p>	



【応募様式】

法人名	社会福祉法人京都福祉サービス協会
施設・事業所名	総合福祉施設 修徳
取組名称	① 修徳カレーの日 ② のほほんカフェ
取組の目的や背景・内容など	
<p>① 児童館を利用する児童を対象として、孤食や食卓の無い家庭での生活を支援するため、修徳ふれあい食堂として平成28年度からスタートした。今年度はメニューをカレーに固定して児童だけではなく高齢者も含めた地域のみんなが集える場所づくりを目的に開催している。児童館と施設、ボランティアによる共同事業。</p> <p>② 認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく生活する。認知症について啓発を行い地域に理解を広めることを目的に認知症カフェを開催したこときっかけとして現在では地域で集える場所として実施されている。参加者はカフェとともに健康講座やコンサートを楽しまれている。</p>	
取組を行って良かった点など	
<p>① 児童館と施設との関係がより深まり、部門を超えて共同で取り組むことの意識づけのきっかけとなった。それぞれの部門で児童だけ高齢者だけということだけでなく、総合福祉施設として地域の課題について共に考え実践することにつながった。</p> <p>② 包括、居宅、区社協、作業療法士会、ボランティアなどが連携し地域のつながりを意識した取り組みを展開している。誰もが気軽に集える場所として、また、思いを共有できる場所として地域づくりのを担っている。</p>	

カレーの日



のほほんカフェ



【応募様式】

法人名	社会福祉法人京都福祉サービス協会
施設・事業所名	地域密着型サービスセンター 桂坂
取組名称	年末の餅つき
取組の目的や背景・内容など	
<p>年末の行事として季節感を感じていただくのと、高齢者と子どもとの交流として、3年前より、年末に児童館の子どもたちを事業所に招いて、餅つきを体験してもらおう取り組みを行っています。</p>	
取組を行って良かった点など	
<p>昨年から、向かいの七彩すまいる館と合同で行い、児童だけでなく、ふれあいの里の障がい者施設の方々も招いて餅つきを行うようになり、地域の行事として拡大されてきた。</p> <p>児童館の子どもたち60名ほども、毎年楽しみにしており、ついたお餅はみんなで鏡餅をつくって参加者が持って帰るようにしています。</p>	

【応募様式】

法人名	社会福祉法人京都福祉サービス協会
施設・事業所名	総合福祉施設 塔南の園
取組名称	小学生の授業参加
取組の目的や背景・内容など	
<p>近隣の小学校より、4年生の「総合的な学習の時間」の授業の一コマを使って高齢者の暮らしについて、授業ができないのか併設の児童館を通して依頼がある。</p> <p>授業には、「高齢者のくらしと、くらしを支える人について知る」をテーマに、特養のご入居者が施設での暮らしについて話をしてもらい、それを支える仕事として介護職員が仕事の説明をした。</p>	
取組を行って良かった点など	
<p>質問の時間には、「生活するうえで困ったことは何ですか？」などの質問もあり、子ども達に関心を持ってもらうことができた。</p> <p>また、高齢者施設や介護の仕事についても知ってもらう機会となった。</p> <p>最後の感想の時には、「大きくなったら介護の仕事をしたい」と言う子どもおり、介護に対して関心を持ってもらうことができた。</p> <p>参加したご入居者も授業に行く前に散髪に出かけるなど、施設の外に出かけて社会参加する機会を持つことができ、ご本人のやる気を引き出せたと思う。</p>	

授業風景



【応募様式】

法人名	社会福祉法人京都福祉サービス協会
施設・事業所名	高齢者福祉施設 西院
取組名称	①みんなの居場所「おいでやす食堂」 ②ひとり一人に寄りそう「@~カフェ」
取組の目的や背景・内容など	
<p>① 子どもから高齢者の方まで、誰でも集まって交流ができるとともに、それぞれの参加者が、自分たちの楽しみや役割を持ち、様々な人と繋がれる場として2016年（平成28年）から始めた食堂です。多世代交流の場ではありますが、子どもたちの参加が多く、子ども食堂としても紹介されています。月1回、カレーを中心とした食事の提供と共に、紙飛行機作りや本の読み聞かせ等、子どもたちが一緒に遊べるイベントも用意しています。</p> <p>② 地域の方たちがゆったりと憩える場として、また気軽に何でも相談し合える場として、週2回、コミュニティカフェを開催しています。</p> <p>豆からひいたコーヒーと、ボランティアさんの笑顔で温かい気持ちになっていただければとの思いで運営しています。</p>	
取組を行って良かった点など	
<p>地域の方と施設の関係が深まると共に、地域の方同士の繋がり作りのきっかけにもなっていると思います。また、ボランティアとして参加くださる方達が、それぞれの自分の役割りに、楽しみながら取り組んで下さっています。職員も、地域の方達と話をし、一緒に楽しむことで、暮らしやすい地域作り、住民同士のきづな作り、馴染みの関係作り、という認識が強まりました。</p>	



【応募様式】

法人名	社会福祉法人京都福祉サービス協会
施設・事業所名	地域密着型サービスセンターwelcome やまの ^{うち} 家
取組名称	地域住民を対象にしたコミュニティカフェ
取組の目的や背景・内容など	
<p>地域の方が気軽に訪れることのできる「居場所」づくりを目的にコミュニティカフェ（「カフェe-ばしょ」）を毎日型（月～土）で運営しています。</p> <p>喫茶や軽食を安価で提供し、訪れやすい仕掛けをしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事・喫茶の提供 ・手作り市やビアガーデンなどのイベントの開催 ・地域の会合や習い事などで利用できる貸しスペース ・地域の方が趣味を活かして製作された物を販売するレンタルスペース 	
取組を行って良かった点など	
<p>職員やご利用者が地域の方と顔馴染みとなり、気軽に声を掛け合い、話したり、時には地域の方が介護や日常の困りごとを相談に来られる事もあります。地域の方同士が交流する機会をつくることにもつながり、カフェで出会い、交流が深まる様子が見られます。また、地域密着型サービスとしては、介護が必要になる以前から、地域の高齢者の方と出会うことが必要です。カフェに毎日、来られる方に介護が必要となった際に、馴染みの関係を継続して、利用者となる事例もあり、地域の方に安心して在宅生活を継続していただけることに繋がっています。</p>	



コミュニティーカフェでの様子



【応募様式】

法人名	社会福祉法人京都福祉サービス協会
施設・事業所名	地域密着型サービスセンターwelcome やまの ^{うち} 家
取組名称	地域の子ども食堂「つながり食堂」
取組の目的や背景・内容など	
<p>山ノ内学区で開催されている、「子育て支援ネットワーク会議」に参画する中で提案した『子ども食堂』の取組です。学区の子どもを中心に、子どもの「居場所」づくりや対象を高齢者や大人も含んでいることから、子どもが地域の大人と出会う機会をつくることを目的としています。こういった場で世代を超えて地域住民同士が顔の見える関係をつくることで、安心安全な地域づくりにつながると考えています。</p> <p>また、この取組は、やまの家と児童館が主体となり、学区社協や民生委員など、地域の各種団体、保育園や小・中学校、学区にある福祉事業所などが連携して実施している事業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事の提供 ・年1回のエコステーションと連携したイベントの開催 ・小規模多機能のご利用者の役割りづくりとしての駄菓子屋の開催 ・遊び場などの提供 ・地域の方がボランティアとして役割りをもち、活動できる場 	
取組を行って良かった点など	
<p>「子育て支援ネットワーク会議」で地域の各種団体などと、地域の子どもを見守ること、大人と出会い、地域の中で安心安全に生活できること、高齢者や認知症の人と出会うことで、自然と理解を深めることについて、話し合い、協力して実行できたことが良かったです。それぞれの団体や事業所などの思いを出し合い、同じ方向を向いていることを確認し、団結をもって取組ができています。これをきっかけに、他の取組にも連携がしやすく、良い関係作りができています。実際に、子どもがやまの家を認識し、安心して行っても良い場所とされており、他の日にも訪れるようになり、こういった場が地域で増えていくことが必要であると感じています。</p>	



【応募様式】

法人名	社会福祉法人京都福祉サービス協会
施設・事業所名	地域密着型サービスセンターwelcome やまの ^{うち} 家
取組名称	地域の子育て支援「 ^{バル} palっこ」
取組の目的や背景・内容など	
<p>事業所内保育ルームを活用して、地域の親子が集える「居場所」づくりをしています。子育てをする親が孤独になったり、子育てに悩むことがないよう、気軽に相談できたり、親同士で話し、楽しめる場づくりをしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事・喫茶の提供 ・保育士による、子育て相談 ・保育士による、子どもの発育アドバイス ・食育教室の開催 ・親が講師などになって実施するワークショップの開催 ・親が自身の能力や趣味を活かして製作した小物などの販売 ・小規模多機能の高齢者との交流の機会 	
取組を行って良かった点など	
<p>地域の親子が集まり、親同士、子ども同士が馴染みの関係となって、楽しんで参加しています。保育士がいることから、親同士の会話が盛り上がり、目を離しても安心できる場であり、日ごろ、子どもとの関係の中で行き詰まりや悩みを抱えていることからひと時、解放されているという感想をいただきます。また、保育士によると、子育てがうまくいかず、悩みを抱えている様子がある親に期間をかけて関わり寄り添うことを意図的にしており、保育士への信頼が大きいと感じます。施設としては、親世代が高齢者と触れ合う事で癒されると感じているとの話も聞き、利用者と交流する機会を作ることで、利用者も子どもたちと自然に触れ合うことができ、認知症のBPSDが軽減されるなど、良い効果が生まれています。施設全体として、多世代が交流出来る場となっており、様々な人にとっての「居場所」となっています。</p>	



「p a l っこ」の様子